

《実績報告書》

ふじのくにジュニア防災士（自主講義コース） 子ども・ユース地域防災リーダー 養成講座

開催日時：令和4年7月30日（土）9：00～13：00

開催場所：佐倉地区センター

主催：特定非営利活動法人御前崎災害支援ネットワーク

協賛：(株)NTN 御前崎製作所、(株)木村鋳造所御前崎製作所、綜研化学(株)浜岡事業所、日本特殊塗料(株)静岡工場、エイケン工業(株)、(株)野川商店、(株)河原崎配管、タクミ建設(株)、(福)東海清風園、(福)灯光園、(司)つなぐ、(株)広和工業、遊輪シヨップふくだ、福代工務店、個人会員

自らの命を守り、将来の家庭や地域の防災リーダーを担ってもらう若い世代を対象として、静岡県認定の「ふじのくにジュニア防災士」養成講座は、県の担当者が講師となって例年は学校単位で開催され、受講者（地域の防災訓練にも参加が必須）には静岡県から認定証が交付される。今回は学校の垣根をなくしなるべく多くの若者の参加を期待して、初めて御前崎災害支援ネットワーク（以下、御前崎災害支援ネット）が主催して開催することとした。

そして同時に御前崎災害ネットが認定する「子ども・ユース地域防災リーダー」養成講座としても開催することとした。

御前崎市からの補助金を受け、受講者の募集には御前崎市役所経由で市内の小中学校にチラシを配布するとともに、池新田高校をはじめ近隣の高校にもチラシを持参した。また高校生には本講座のボランティアスタッフとしてかかわってもらう案内も出した。

多くの参加者を見込んでいたが新型コロナウイルス感染症第7波の影響もあってか少し寂しい参加者となったが、参加者は大変意欲的に学ぶ姿勢で参加していた。来年以降も継続して開催する予定である。



【参加人数/内訳】

小学生6名、中学生1名、高校生9名、見学者2名、当日スタッフ1名、
御前崎災害支援ネットワーク理事7名、御前崎災害支援ネットワーク会員5名

<合計 31名>

【研修内容】

講義1. 「地震、津波、風水害などの基本的知識」(グループワーク含む)

参加者はあらかじめグループ分けされたテーブル(4グループ)につき、本日の一連の講義等を受講した。

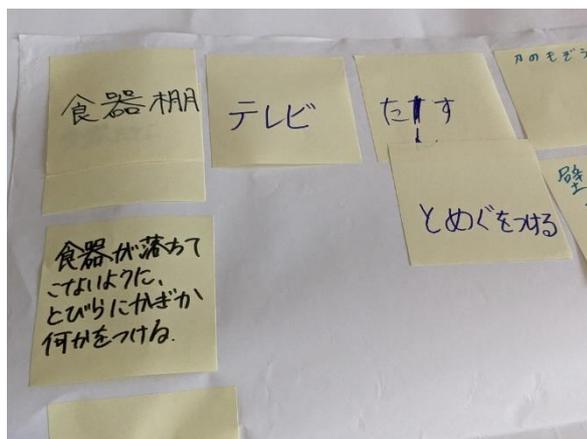
地震や津波、台風などといった現象は自然現象であり、それらの現象が人間の社会に影響を及ぼすと災害となる。そのため防災とか減災といった対策が必要となる。そして地球の成り立ちから地震のメカニズムの説明があり、南海トラフ巨大地震について説明があった。専門家によるとこの地震は2035年±5年の間に発生する確率が高いといわれている。

その後阪神淡路地震発生時の映像、耐震対策の有無による住宅被害の実験映像、家具等の転倒による被害実験の映像を見た後、受講者はテーブルごとにグループワークを行った。

①家の中で地震から命を守るにはどうしておけばよいか。

②家の外で地震から命を守るにはどうしたらよいか。

上記のそれぞれの問いに対し個人で考えたことを付箋に記入し模造紙に貼った。そしてそれぞれの付箋で同じような内容のものをまとめる作業を行った後、各グループで発表を行った。



講義2. 「自分、家族の命を守る地域防災リーダーとして」(グループワーク含む)

地震などの自然現象が発生した場合、私たちの生活に多くの危険や支障が生じる。それを具体的にどこまで想定し、そのための具体的な対策をどこまで考えられるか、下記の設問に対して講義1と同様にグループワークを行い発表した。

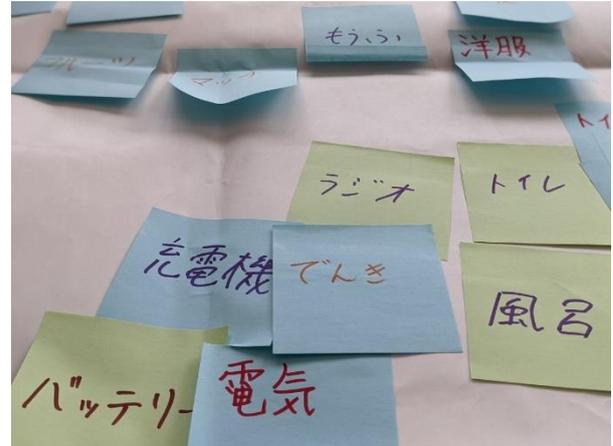
①生活に必要なものとしてどんなものを準備しておけばよいか。

②食べるものはどんなものを準備しておけばよいか。

自宅の生活が困難になると避難所生活となるが、避難所では多くの不便があるため、なるべく避難所に行かないように準備をしておくことが必要となる。避難所でも自宅でも災害が発生した時に一番困るのは食事とトイレ。

食料は通常使用するものを多めに購入しておき、それを使用したらまた補充するというローリングストックという考え方が有効である。そして巨大な地震が発生した際は下水処理施設や配管等の設備の損壊等によりトイレが使用できなくなるため、流さずに自分で処理ができるような対策(ペットシートや猫の砂の利用など)を準備しておく必要がある。

また「要配慮者」という一人では避難行動や避難生活が難しい人たちがいることを理解し、そのような人たちは災害発生時にはどのような不便があり、どのように対応したらよいか考えた。



講義 3. 非常食作り

メニュー ①ごはん ②ベジタブルチーズハンバーグ ③だし巻き風たまご
④じゃがりこポテトサラダ ⑤さつま芋レモン煮(防災食) アイスクリーム乗せ

食物アレルギーのある人は食べられない食材があることの説明を受けた後、受講者は調理室に移動しスタッフの指導の下、それぞれ以下のように受講者で非常食の準備をした。

- ①はビニール袋に米を入れて空気を抜き、輪ゴムで袋の口を縛り熱湯に入れる。
- ②はスタッフがあらかじめこねておいた具をビニール袋に入れ①と同様にする。
- ③はビニール袋に卵を割り、出汁つゆを適量入れて混ぜ①と同様にする。
- ④は市販のじゃがりこサラダ味に熱湯を注ぐ。
- ⑤は防災食として市販されているさつま芋のレモン煮にアイスクリームを乗せる。



講義 4. 避難所運営ゲーム (HUG)

各グループのテーブルに事前に貼っておいた浜岡中学校の敷地と体育館の見取り図を避難所と想定し、避難所運営ゲームのカードをスタッフが番号順に読み上げ、カードに記載してある情報(避難者・イベントなど)について考えながらカードをそれぞれの見取り図に置いていった。

受講者は話し合いながら、最初から 15 枚のカードをまずは避難所である体育館に適当に置いていた。その後講師から雑然とした雑魚寝状態にならないよう、体育館には車いすが通れる幅の通路を確保しておく必要があるという説明があり、各グループは体育館の見取り図に通路となる線を引きゲームを再開した。

カードには小さな子供を抱えた家族、高齢者、体調不良の人、団体バス旅行者、外国人旅行者、ペット連れの家族など、多種多様な避難者の情報だけでなく、受付、喫煙所、車中泊、仮設トイレなどといった情報もあり、受講者は考え悩みながらそれぞれのカードを図面上に置いていった。



以上で一連の講義は終了した。

ふじのくにジュニア防災士認定には防災訓練に参加する必要があることを説明した後、子ども・ユース地域防災リーダーのレポートを記入。そして非常食を試食した後、子ども・ユース防災リーダー認定書がそれぞれに授与され、本日の養成講座はすべて終了した。

【受講者のレポート】(抜粋)

Q1. 自分や家族の命を守るには、あなたはどのような対策をしますか？

【小学生】

- ・家にあるたおれそうなものをとめる。
- ・安全なひなんルートのかくにん。
- ・防災リュックをそなえておく。
- ・ひとつような物（ランタン・ヘルメット・非常食・水など）を準備しておく。

【中学生】

- ・(略) あらゆることを想定して準備を行う。

【高校生】

- ・家具の固定や避難場所を知る。
- ・(略) 家の設計は地震に強いのかを確かめる。
- ・避難所に逃げる必要がないようにする。その為にも家具の転倒を防ぐ。
- ・(略) 一緒にハザードマップを見て、常に避難する場所や道や危険なところを確認して、命を守る対策をする。
- ・家の中にある棚や冷蔵庫を固定する。窓に（飛散）防止テープを貼る。

Q 2. 災害時に一番困ることは何だと思いましたか？

【小学生】

- ・水と電気が止まるとこまる。
- ・断水などで体が洗えない。トイレが流せなくなって山盛りになるなど。
- ・食事です。

【中学生】

- ・食事。

【高校生】

- ・通信。
- ・断水。食事、トイレ、風呂など、生活の中心となるところに水は必ずある為。
- ・携帯電話が使えなくなって情報収集がしづらくなること。

Q 3. 家庭の防災リーダーとして、家族とどのような話し合いをしてどのような具体的な対策をしますか？

【小学生】

- ・家族とのれんらくしゅだんをおたがいに作っておく。
- ・（略）それ以外にも自宅ひなんに対応できる簡易トイレなどの提案や家の補強のていあん。
- ・おちてくるものやたおれてくるものをどうするか対策をする。
- ・じしんがきたらかたい物の下にかくれる。
- ・ちかつかないところをちゃんと言ってあげる。

【中学生】

- ・災害が起きたとき困ることをみんなで考えて対策できることはしていきたい。

【高校生】

- ・災害に遭った時連絡ができないため、落ち合う場所を全体で理解し共有する。
- ・（略）非常食はどうか、移動はどうかなど話し合う。
- ・避難場所の確認や備蓄に関して話し合う。また家具の安全対策についても話し合いその対策を行う。
- ・家にいない時の対応の確認（避難場所の位置、避難した後どこで集まるかなど）。

Q 4. 近所や自分の住む地域で災害が起きたら自分はどうなお手伝いができますか？

【小学生】

- ・ひなんさきでにんぷさんやおとしよりの人に声かけをする。
- ・応急処置などのアドバイス。
- ・しょうがいの人を助けること。
- ・要配慮者のみのまわりのケア。
- ・ひじょう食のはいふのお手伝いをする。

【中学生】

- ・HUGを今日行ったことで少しでも避難所での運営をしていきたい。

【高校生】

- ・支援物資を配るのを手伝う。
- ・近所の人誘導、荷物を持ってあげるなど。
- ・今回HUGで学んだことを活かし、実際に世帯を区画ごとに分ける際に意見を出す。
- ・家のがれきの撤去や荷物の持ち運びなどを手伝うことができると思う。
- ・地震の揺れなどが収まったら道路のゴミ拾いなどの復旧をする。

Q5. 非常食を作って試食した感想と講座全体の感想を書いてください。

【小学生】

- ・ビニールぶくろにざいりょうを（入れ）お湯に入れてただけでごはんができたのがびっくりしました。おいしかったです。
- ・正直まずい。けどおなかがすいたりするよりいい。割とお腹がたまる。
- ・災害から命を自分で守ることをしないといけないんだなと思った。
- ・講座がとてもわかりやすかった。
- ・ちょっとお話はむずかしかったけど、わたしもこれからはぼうさいについて勉強しようと思いました。
- ・ひなんしてきた人を体育館のどこにするかとか、だれといっしょにするかというところがむずかしかった。

【中学生】

- ・（略）いろんな人が世の中にはいるから、一人ひとりの特徴をふまえて災害では行動していきたい。

【高校生】

- ・簡単に作ることができ味もおいしく、後の処理が楽なので避難時にとって助かると思いました。
- ・自分が災害時の行動で分からなかったりしていたことを全て理解することができた。
- ・講座を通して改めてどんな行動をしたら良いのか確認することができてよかった。
- ・非常食に対してあまりおいしいという印象はなかったが、実際じゃがりこポテトサラダですらおいしいと思った。どうやって作るかなんて美味しさに関係ないと感じた。
- ・（略）日頃からイメージトレーニングをしっかりとしておくことが大切だなと思った。
- ・（略）自分が通っている学校以外の学校も気に掛けたほうが良いと考えました。

以上





特定非営利活動法人
御前崎災害支援ネットワーク

《事務局》

〒437-1612 静岡県御前崎市池新田5408-1

TEL/FAX 0537-86-2053

E-MAIL omaezaki-dsnet@shore.ocn.ne.jp

URL <http://omaezaki-dsn.net/>